

第161関係様式

調 査 研 修 報 告 書

令和 5 年 2 月 16 日

大郷町議会議長  
石川 良彦 殿

会派の名称.....公明党

代表者（議員）和賀 直義



下記のとおり政務活動調査研修のため旅行したので、大郷町議会運営に関する基準第161の規定により報告いたします。

記

1. 期 間 令和4年11月 9日～11月 11 日

2. 調査地 長野県辰野町にて古民家活用、富士見町のカゴメ野菜生活ファーム  
静岡県函南町の「伊豆ゲートウェイ函南」を視察研修した。

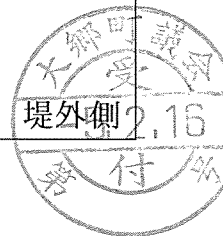
3. 所 感

(1) 辰野町の古民家活用は当町の空き家バンク制度を経ている。この町の空き家バンク制度の特徴は、家財道具の処分費補助、改修費用補助（以上は大郷も実施）、仲介手数料の補助金があり少額の場合を手厚くしている。仲介は不動産業者が行っておりこの業者は都市の大手不動産の勤務経験ありの不動産のノウハウを持ち、空き家を探している側の要望も重視している地域おこし協力隊員で不動産を営んでいるとのこと。大郷の不足している点は実力のある仲介者がいない点と考える。

(2) 「カゴメ野菜生活ファーム富士見」はカゴメ(株)が50年間の生産を支えて頂いた地元にご恩返しの意味で富士見町との協業で、耕作放棄地解消と地域・観光活性化策を目的に「野菜のテーマパーク」を2019年に開業、企業と自治体の信頼関係が築かれている姿と拝察した。

隣接する富士見工場、八ヶ岳みらい菜園と協働で、野菜や自然とふれあい、生物多様性の学び、収穫体験、工場見学、買い物ができ、予約はオンラインで受け付け、集中・混雑を避け年間3万人が来場しているとのこと

(3) 「伊豆ゲートウェイ函南」は国道136号バイパスを挟み堤内地側が道の駅、堤外側



が川の駅として、平成 29 年に道の駅平成 31 年に川の駅がオープンした。

狩野川堤防の一部及び狩野川高水敷の一部を函南町が占有し、水防多目的センター及び水辺広場として整備された。水防活動の拠点、地域コミュニティの場として活用するとともに、道の駅と連携して狩野川の新たな交流拠点、スポーツツーリズムなど観光情報・体験の拠点として活用されている。水辺広場はイベント利用の芝生広場、カヌー体験ができる親水護岸、水辺で遊べるエリアのワンド、ドッグラン、遊歩道にて構成されている。この地点は交通の中心地となっており、富士山の全容が見え、道の駅との相乗効果で交流人口が増加している。又近場に 2018 年に明太子のかねふく(株)がテーマパークをオープンし、このことも交流人口増加に寄与しているとのこと。

冠水時の土砂等撤去工事に 64 万円×4 回の工事請負費を見込んでいるが、最近は 4 回以上の実績とのこと、大郷のかわまちづくりにも一考すべきだ。

以上

※調査内容、出席者名、旅程表については、計画書と相違がある場合は、その内容と理由を明記したものを添付すること。